



AWA 4.0 KeY' TOKEN (ver.10.1)

次世代イーサリアムブロックチェーンプロジェクト KeY' TOKEN について

2017

- ▶ 4/25 資料リニューアル
- ▶ 7/25 資料更新



最先端のFIN TECHのシステムをシェアして
皆さまと最高の未来を作っていきたい

「インターネットを再構築する」「地球規模のコンピューター」そう提唱する「イーサリアム」。

そのイーサリアムの基盤テクノロジーである「ブロックチェーン」、「スマートコントラクト」。

KeY' TOKEN はイーサリアムのプラットフォームで「smartBANK」サービスの研究開発によって世界の既存の金融サービスに非中央集権、自立分散型で「透明性」「正確な取引」を提供し、既存の銀行、金融業界をよりオープンで安心できる世界へと構築し、業界にレボリューションを起こし、世界の金融サービスをスマートにしていきます。



1-1. 開発者バックボーン・会社概要

WHITE FOX VENTURES, INC.

WHITE FOX VENTURES, INC. ※2018年NASDAQ上場申請予定



米国株式公開企業で、投資教育事業をベースに、全世界の先端技術及び、現物資産を保有する企業等に投資を実行しています。2016年は、全世界の未曾有の財政動向に伴う通貨危機を予見する立場から、NQMIの証券シンボルでロンドンに上場している豪州の鉱業会社NQ Minerals, PLCに投資を実行しました。KeYには、各事業、顧客のための財産保護などのガイドラインをKeY' TOKEN発行体に提供しています。今後は、中国を含むアジア全域にて、投資事業を拡大し、有望な買収案件の発掘に向けて複数のセクターの評価も進められており、投資銀行業務、そして現在検討中の他の潜在的な買収案件の資金調達のための基盤として、収益力のある当社のアカデミービジネスをアジア地域で拡大する方針です。

※WFVは『KeY' TOKEN』の発行体ではありません。

最新情報は、オフィシャルウェブサイト

<http://www.whitefoxventures.com/>

ライター

<http://www.reuters.com/finance/stocks/overview?symbol=AWAW.PK>

仮想通貨・暗号通貨の開発及び、世界の投資銀行等の金融機関・事業会社等に対するブロックチェーン開発等のアドバイザリー業務を開始

仮想通貨・暗号通貨の開発及び、世界の投資銀行等の金融機関・事業会社等に対するブロックチェーン開発等のアドバイザリー業務を開始

2017年1月16日14:17 PR TIMES シェア

半田株式公開企業のWhite Fox ベンチャーズ株式会社 (White Fox Ventures, Inc.以下、WFV) 証券コードは(OTCQB: AWAW)は、2017年1月12日付で、仮想通貨・暗号通貨の開発及び、世界の投資銀行等の金融機関・事業会社等に対するブロックチェーン開発等のアドバイザリー業務を開始することを発表しました。

WFVが開発を実施したイーサリアム実装型暗号通貨は、「Key」（以下本暗号通貨）と名称され、オフショアに設立された特定信託会社により、主にビットコイン、イーサリアム、金の3つの資産が信託され、その信託財産を基盤として、イーサリアムブロックチェーンにより発行される暗号通貨です。

中野慎介CEO最高経営責任者は、「本暗号通貨は、直近1月10日から発生したビットコインの暴落にも対抗できる通貨だ。3つに分散された資産が、相互に弱点を補完している。今回のビットコイン暴落」

<https://mag.osdn.jp/pr/17/01/16/132614>

各種お問い合わせ

KeY' TOKEN 日本国内正規取次代理店企業（収納代行）
E-wallet 合同会社（英表記 E-wallet, LLC.）代表者名：代表社員 阿部剛大

住所：〒108-0072 東京都港区白金 2-5-16 イグレック 7F
TEL&FAX：03-6459-3239 / 03-6459-3237
MAIL：info@e-wallet.co.jp



1-2. 開発者バックボーン・会社概要

イーサリアム詳細

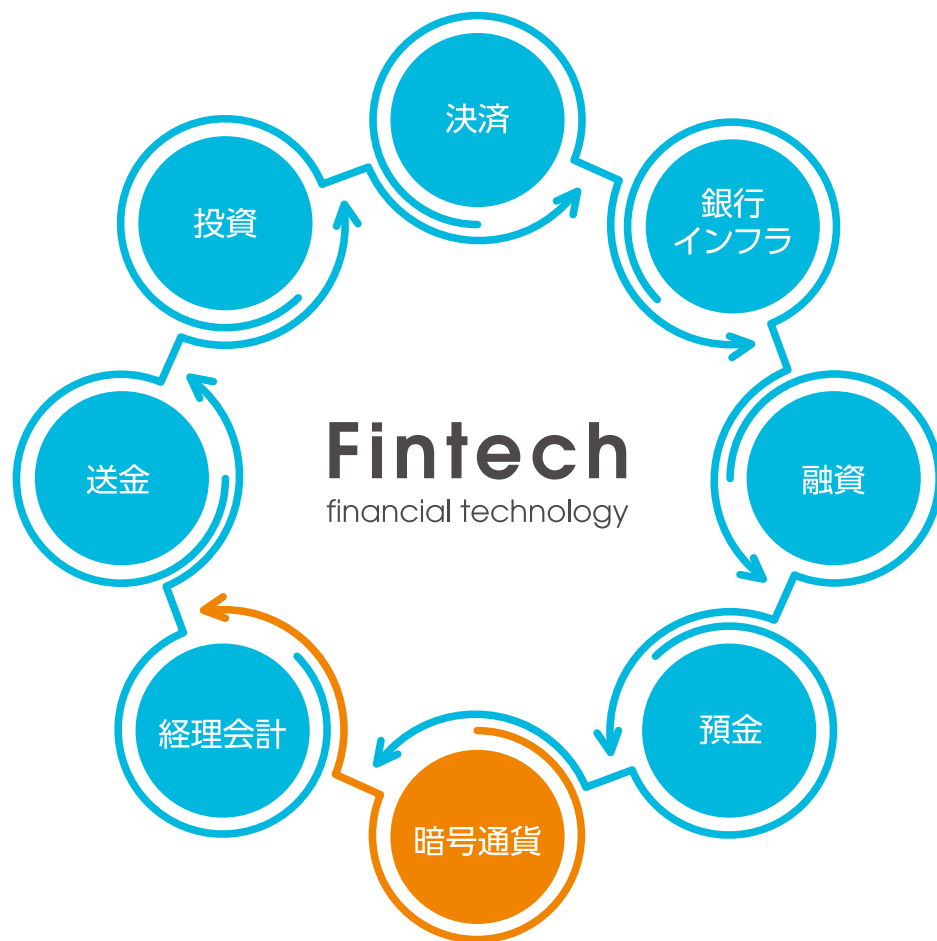


イーサリアム

イーサリアム（英：Ethereum）は、イーサリアム・プロジェクト^[1]により開発が進められている、分散型アプリケーション（DApps）やスマート・コントラクトを構築するためのプラットフォームの名称、及び関連するオープンソース・ソフトウェア・プロジェクトの総称である。

イーサリアムでは、イーサリアム・ネットワークと呼ばれるP2Pのネットワーク上でスマート・コントラクトの履行履歴をブロックチェーンに記録していく。またイーサリアムは、スマート・コントラクトを記述するチューリング完全なプログラミング言語を持ち、ネットワーク参加者はこのネットワーク上のブロックチェーンに任意のDAppsやスマート・コントラクトを記述しそれを実行することが可能になる。ネットワーク参加者が「Ether」と呼ばれるイーサリアム内部通貨の報酬を目当てに、採掘と呼ばれるブロックチェーンへのスマート・コントラクトの履行結果の記録を行うことで、その正統性を保証していく^[2]。このような仕組みにより特定の中央管理組織に依拠せず、P2P全体を実行環境としてプログラムの実行とその結果を共有することが可能になった。

イーサリアムの構想は2013年にVitalik Buterinにより示され^[3]、その構想はGavin Woodにより学術的な整理がなされた^[4]。また、プラットフォームの開発においては、2014年2月にProof of Conceptの最初のフェーズ（PoC-1）として、プログラミング言語C++で実装されたクライアントがリリースされた。以降、順次開発が進められ、POC-9である「Olympic」を経て、2015年7月30日に最初のβ版である「Frontier」がリリースされた。今後、Frontierでのネットワークの安定性の確認やユーザビリティの向上を含めた改良がなされ「Homestead」、「Metropolis」、「Serenity」と呼ばれるバージョンが順次リリースされていく予定である^[5]。イーサリアムのブロックチェーンを稼働させるソフト・アプリを開発する目的で設立された企業コンセンシスが、2016年にデロイトトウシュートマトと技術提携して、イーサリアムのプラットフォームを基礎にした銀行をつくることになった。



Financial + Technology

フィンテック、Fintech とは、情報技術（IT）を駆使して金融サービスを生み出したり、見直したりする動きのことである。従来から金融業界では情報通信技術が活用されていた中、2010年代以降、フィンテックとして注目が高まる理由は、インターネット関連技術等により従来の大手金融機関が独占していた業務を個人や新興金融企業が可能になったことにより業界秩序並びに社会構造が変化する兆候が語られるからである。

我々はブロックチェーン上に組み込まれたスマートコントラクトの開発技術による次世代「smartBANK」サービス開発を進め、「ブロックチェーンスマートコントラクト」で「金融サービスの再構築」における、既存の銀行やクレジット、融資業などの旧体制をレボリューションして、誰もが透明性とオープン性を持つスマートな社会を作っていきます。

暗号通貨は全ての領域の基盤になっている

個人財務管理	オンライン投資	クラウドファンディング
投資支援	経営・業務支援	スマホ・Web 決済 / 送金

暗号通貨



3-1. 暗号通貨

マーケットキャップ

2017年7月時点での暗号通貨の時価総額は11兆円を超えています。2013年4月時点の時価総額が1600億円程度でしたので4年で60倍以上に拡大しました。

コイン名	時価総額	価格	流通量	取引額(24h)
Bitcoin	\$427億	\$2601	1643万 BTC	\$8.8億
Ethereum	\$255億	\$274	9306万 ETH	\$8.1億
Ripple	\$97億	\$0.25	382億 XRP	\$0.55億
Litecoin	\$26億	\$51	5186万 LTC	\$5.6億
Ethereum Classic	\$16億	\$18	9328万 ETC	\$0.75億
Dash	\$16億	\$210	740万 DASH	\$1.3億



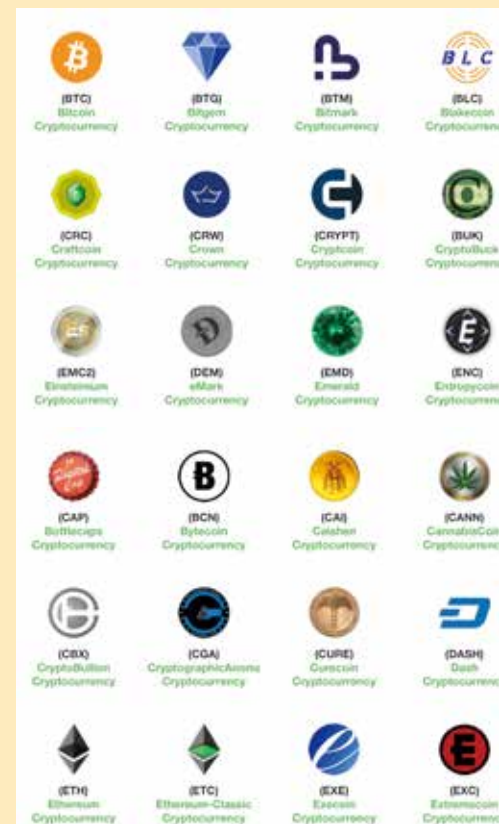
4年で時価総額が60倍以上に拡大



3-2. 暗号通貨

アルトコインの急増

2017年7月時点ではビットコインの時価総額占有率は50%ほどでアルトコインの誕生とその成長が大きくなっていることを示しています。



※ビットコインをはじめ、多くの通貨が流通している。

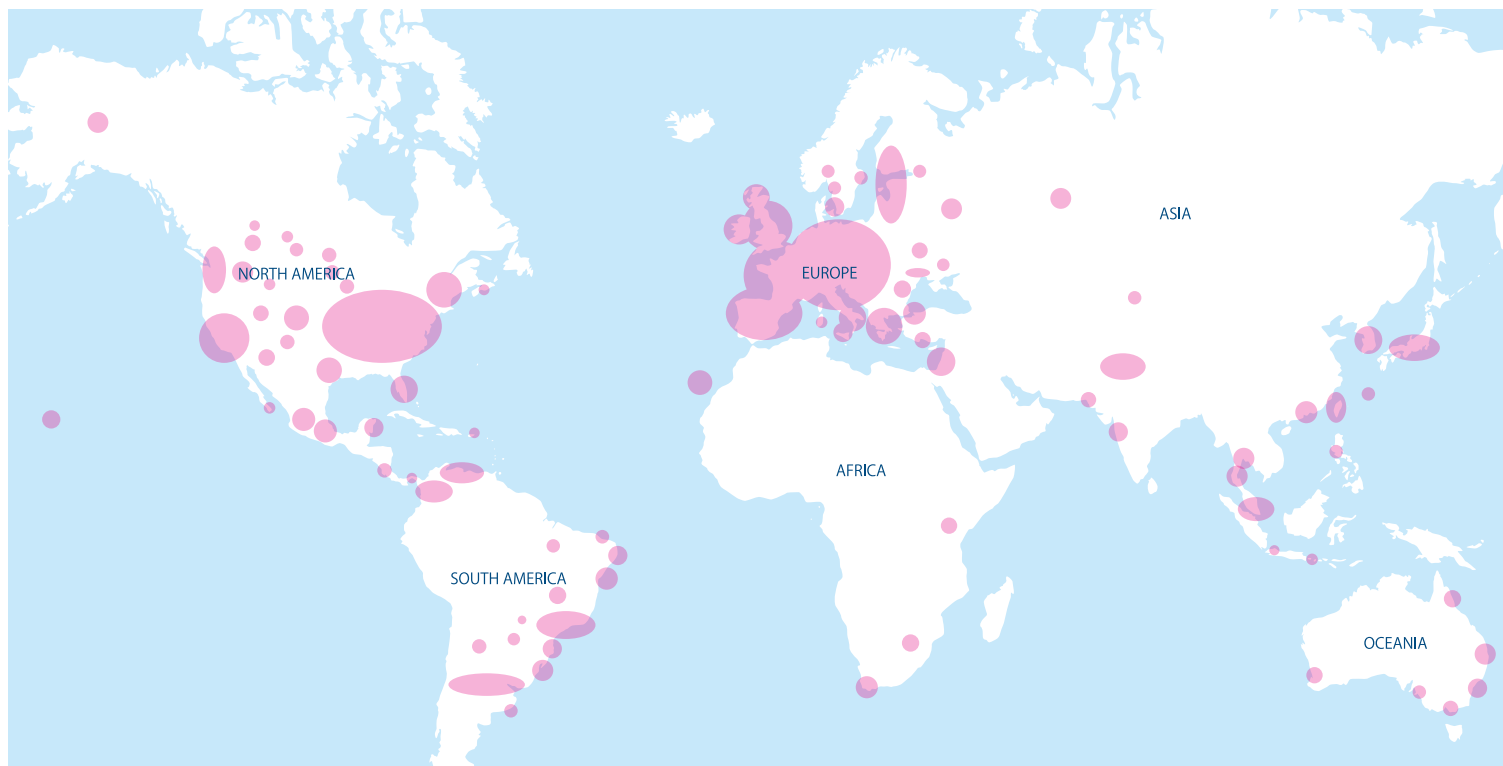


3-3. 暗号通貨

決済可能店舗分布

決済可能店舗の拡大

2017年7月時点ではアメリカや欧州を始めとする先進国の多くの国や地域でビットコイン決済ができる店舗の数が9000店舗を超えており、ここからも急激に市場が拡大していることがわかります。今後は新興国・後進国へと広がっていく可能性が見込まれます。



2013年4月時点で3店舗



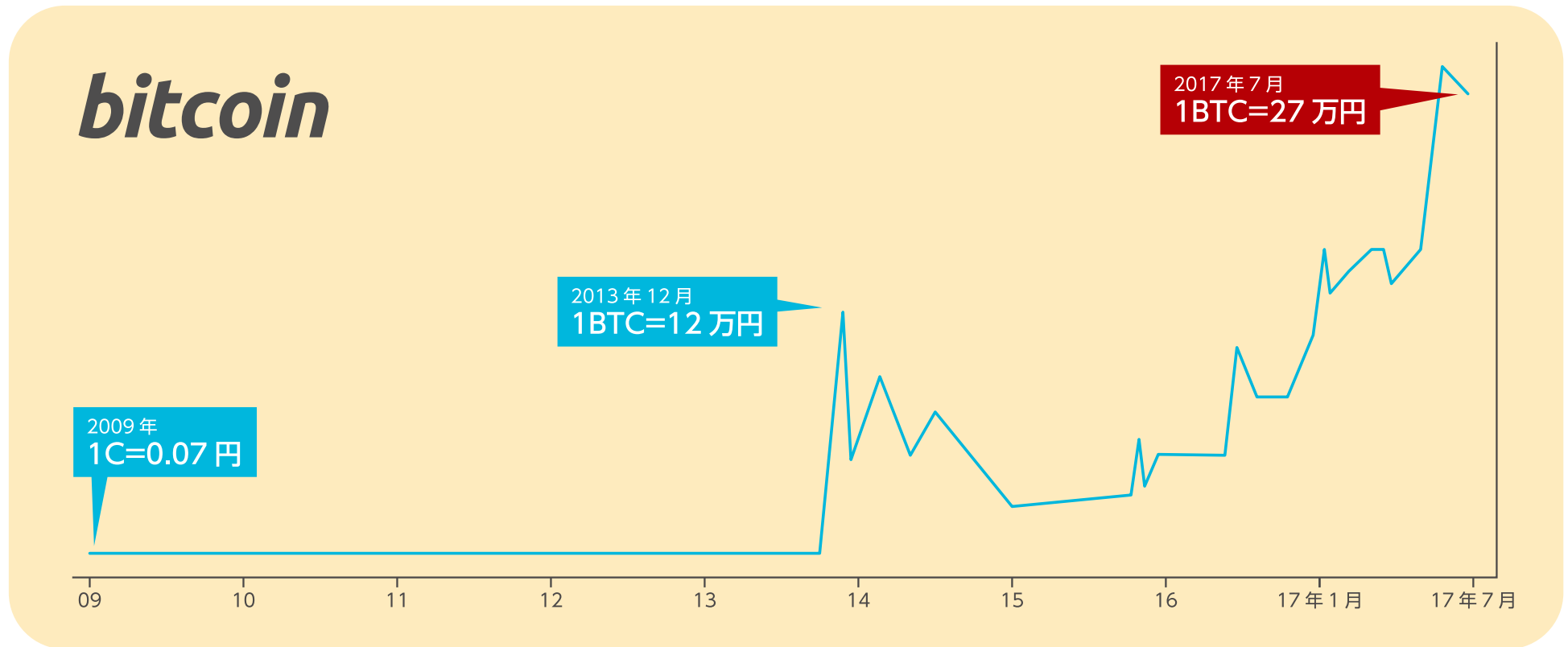
2017年7月時点で9,000店舗

3,000倍以上の増加



4. Bitcoin の値動き

- Bitcoin は 2009 年当時 0.07 円からスタートし、2013 年 12 月に 182 万 5 千倍となる 127,800 円を記録。2017 年 6 月には 30 万円を越え高値を更新した。

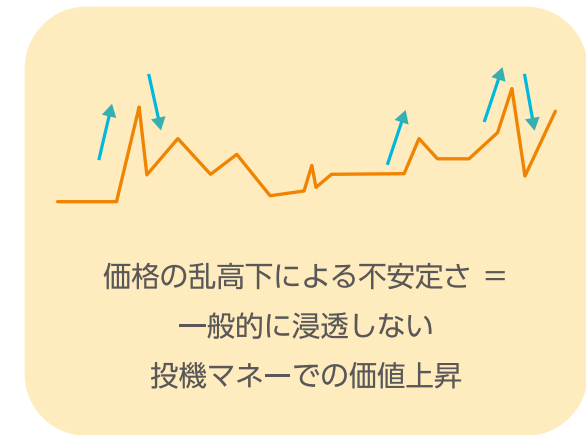
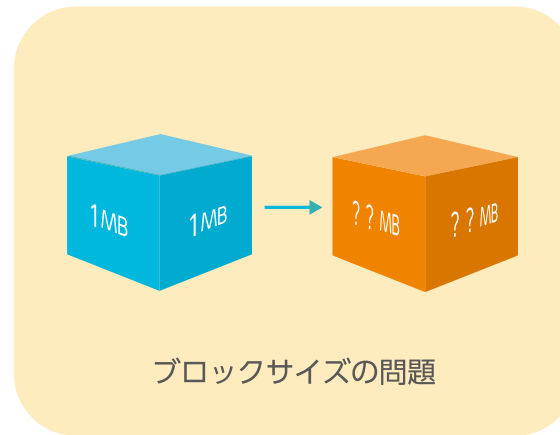
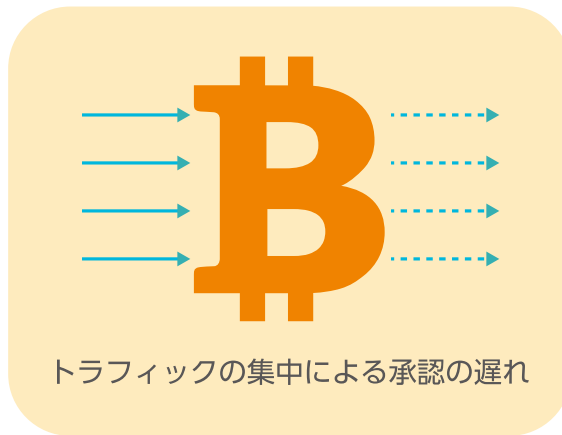


価格の高騰により数々の億万長者を生む一方、価格が安定しない、一般的に浸透し難いといった問題も…

5. Bitcoin の普及だけでは足りない

10

■ Bitcoin が抱えるさまざまな問題



世界に暗号通貨が普及する為に、多数のトークンが認知されそれぞれが補完関係になることが重要

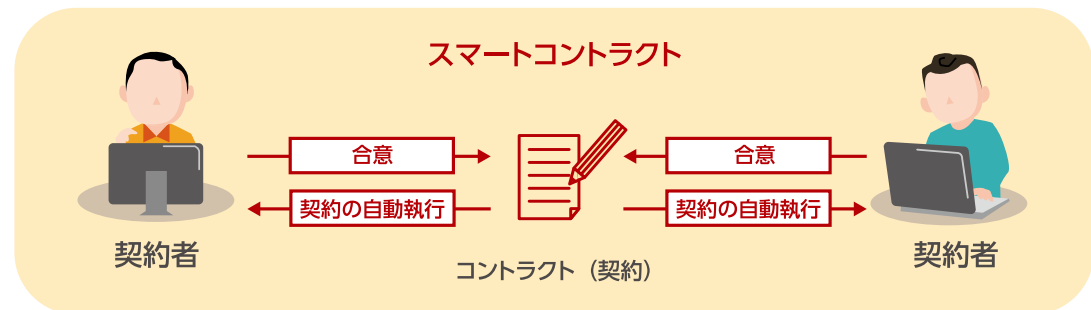
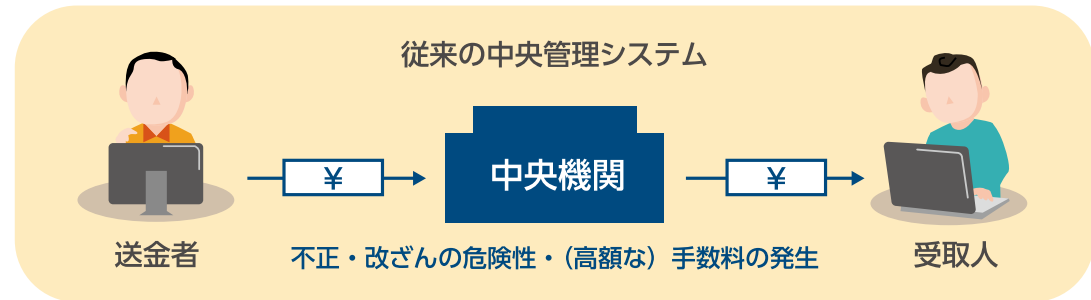
◆ 6. イーサリアム (Ethereum) とは

■イーサリアム (Ethereum) の通貨単位はイーサ (Ether)。その他に使用者が独自に定義した契約 (スマートコントラクト) ・財産を扱うことができる高い柔軟性を持った仕組み
単純なコインではなく、大きな金融インフラである。



イーサリアムはビットコインに続く
コインとして世界的に評価されている。

特筆すべきことは、
契約が中央機関なしに自動執行が
可能であること。



イーサリアムはビットコインと同様に、採掘 (プルーフ・オブ・ワーク) によって新規発行する仕組みで、将来的にはプルーフ・オブ・ステークに移行すると発表。



8. 第三の波 KeY' TOKEN !!

13



Point
1

ビットコインとイーサリアムにおける長短所を KeY' TOKEN により補っている。

Point
2

研究開発信託として、暗号通貨と金価値を同時に担保している独自の『trust』の導入はプロジェクト上はじめてである。

Point
3

世界中で簡単に換金できるバンキングシステムを構築中。

Point
4

ブロックチェーン上のスマートコントラクトにより構成されたプラットフォームで、次世代スマートバンクの構築、銀行事業により派生していく取引所の世界ネットワーク展開により高い流動性と事業収益性を実現。

KeY' TOKEN プロジェクト参加者にも高いメリットを提供します。

9-1. KeY' TOKEN がもたらすユーザーメリット

14

スマートバンクプロジェクト

KeY' TOKEN
クラウドセール

資金調達

スマートバンク
プロジェクト構築へ!



KeY' TOKEN ユーザーが、世界中どこでも、自由に
レジヤ、お買い物、お食事などにご利用頂くことが可能!!

KeY' TOKEN は、2017 年（予定）WhiteFox Ventures Inc. により
設立されるスマートバンク（仮称）において、正式に通貨認定を行い、預金サー
ビス、USドル、日本円などの為替両替サービス、外国通貨預金、デビットカー
ド決済サービスなどを提供。



世界中でエクスチェンジ、ATM での出金も可能に

🔑 9-2. KeY' TOKEN がもたらすホルダーメリット

15

スマートバンクプロジェクト

開発を進めている次世代銀行サービス「smart Bank」では KeY' TOKEN をはじめ様々なクリプトカレンシーをマルチ通貨のように扱える銀行を目指しています。

ブロックチェーン・クリプトカレンシーを採用する事により、世界各地への取引所との提携を行います。取引所で発生する手数料や、smartBank から発行されるクレジットカードをユーザーが使用した際に発生する手数料、銀行を後ろ盾としたソーシャルレンディング等。

上記のような次世代インフラを構築する事によって、得られる様々な事業展開が KeY' TOKEN プロジェクト支援者（ホルダー）にとって大きなメリットになることを可能としています。

ホルダーメリット



🔑 10. KeY' TOKEN 概要

16

- イーサリアムブロックチェーン
- 予約申込金 一口10万以上
- 「KeY' TOKEN」を保有するユーザー間取引
- イーサリアムブロックチェーンが保護、不正や改ざんを阻止

KeY' TOKEN で smartBANK プロジェクトは
ファーストステージでクレジットカード業務に参加

ブロックチェーン上の独自の与信に
ソーシャルレンディングで
世界中が参加可能。

smartBANK

KeY' TOKEN
(暗号通貨)

デビットカード利用

KeY' TOKEN の価格上昇、人気上昇。

銀行サービスがブロックチェーンでスマートコントラクトでのクレジットカード与信枠をソーシャルレンディングによって圧倒的なニーズとシェアエコノミーを実現していきます。

このプロジェクトによって与信枠が不当に少ない、もしくは無い世界中の人々にブロックチェーンを活用してスマートにしていきます。

また貸し手は改ざん不可能なブロックチェーンと契約の自動執行であるスマートコントラクトによって安心して参加できます。

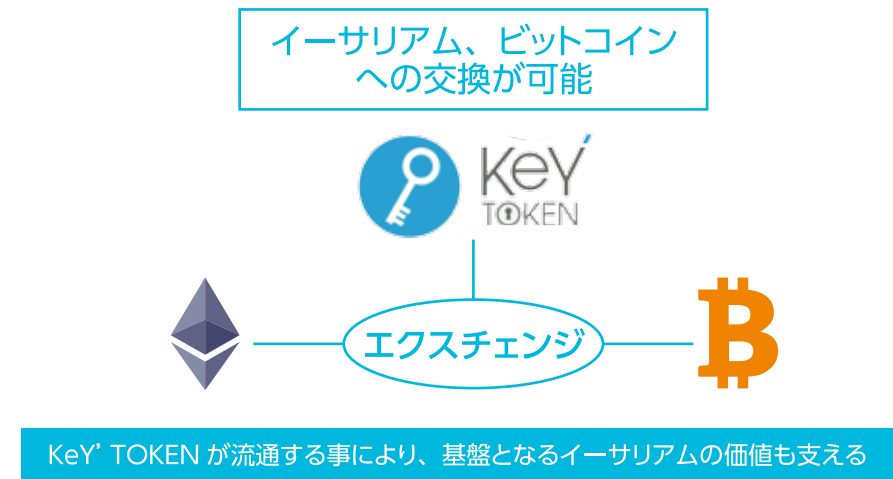
11. KeY' TOKEN 開発の背景

不安定なコインに飲まれるのではなく、市場に定着したコインを活用する事で信頼性のある成長が望める

混沌としたコインのマーケットは
現在のコインにまかせ…



KeY' TOKEN はすでに市民権を得ている
ビットコインやイーサリアムのブロックチェーンを活用



さらにマスターカードで
世界中でエクスチェンジ、
ATM での出金も可能。

12. KeY' TOKEN 価格上昇の可能性について

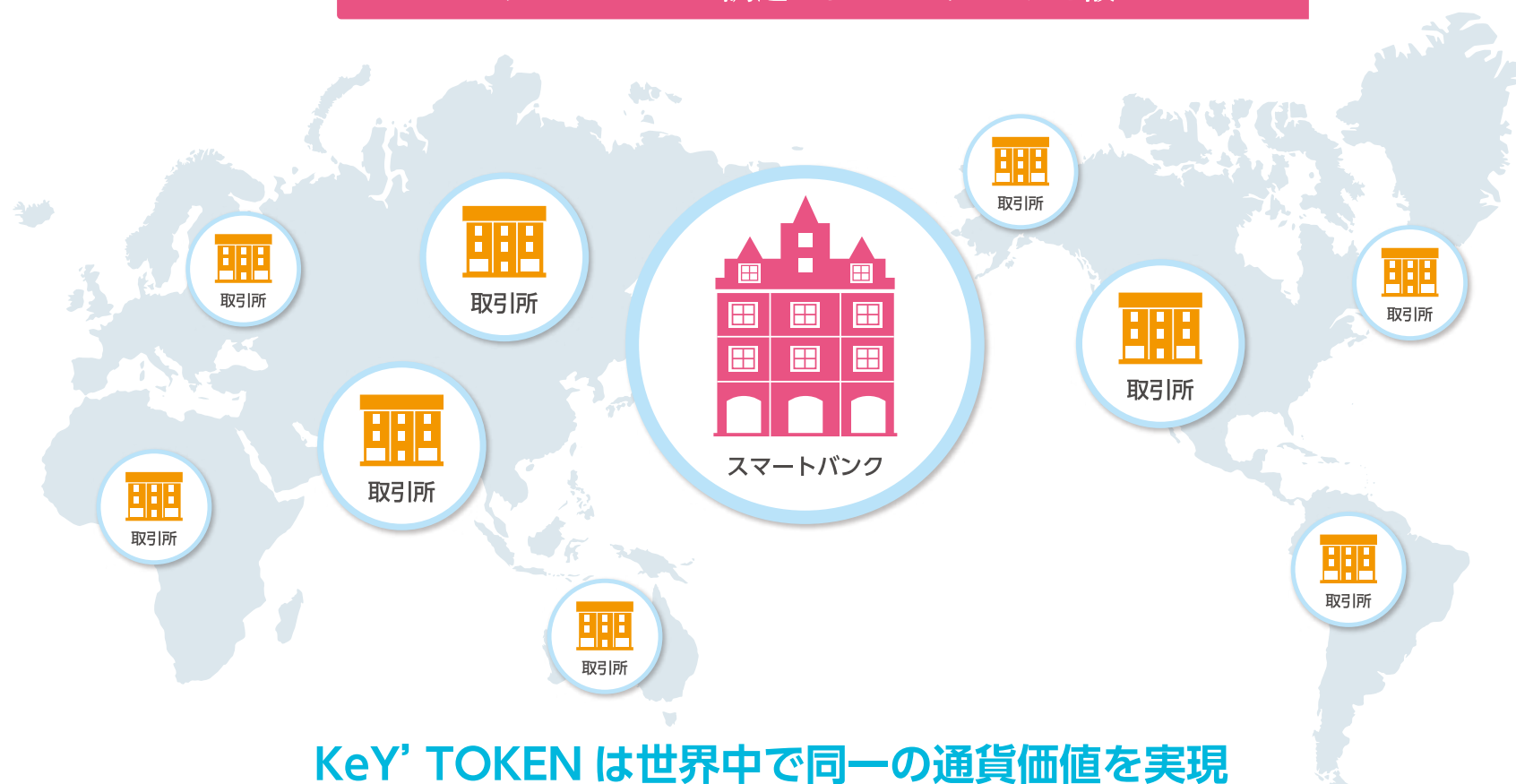
smart bank 構想が出来上がることで多くの暗号通貨保有者を獲得できる可能性がある。
更に銀行との連携により実現予定の暗号通貨の定期預金口座を開設するには KeY' TOKEN の保有を義務付ける予定により、KeY' TOKEN の買い需要と保有を促すことで KeY' TOKEN の価格は大きく上昇すると見込まれます。



※プロジェクト進捗状況により予定が変更となる可能性が御座います。



プレセールでの調達からスマートバンクを設立



KeY' TOKEN は世界中で同一の通貨価値を実現

スマートバンクを背景に世界中の取引所と連携し、KeY' TOKEN の流通および、国々に関係なく価値を同一に担保できるネットワークを構築していきます。スマートバンクでは暗号通貨の利便性を向上させながら、銀行業務にブロックチェーンを採用し、人的コストの低下や、レンディング、為替取引、送受金、クレジットカードの使用状況等、KYC を含む各分野を自動執行させることにより全く新しい、ミスと不正の無い信用できる中央機関を作っていきます。



13-2.KeY' TOKEN プロジェクトの未来

スマートバンクプロジェクト構想図

20

銀行

Private Chain・フルバンキングサービス

暗号通貨定期預金サービス

利用制限として KeY' TOKEN の保有を必須とする

暗号通貨取引所ネットワーク

全ての取引所で KeY' TOKEN を取扱い
流動性を拡大



スマートバンク (仮称) 設立

- フルバンキングサービス
- クレジットカードサービス
- SWIFT 国際送金可能



金融機関として扱える、
ほぼ全てのサービスを提供可能

暗号通貨定期預金サービス

- 暗号通貨に利息が付く
- 短期～長期で利息変動



スマートバンク (仮称) が
サービス支援
サービス利用には、
KeY' TOKEN の保有が必須

暗号通貨取引所ネットワーク

- 流動性の確保
- 統一された取引価格
- 利便性の向上
- インターバンク化
- プライベートチェーン



各取引所には
KeY' TOKEN の取扱を必須
新規暗号通貨を多く取り扱う

14. クラウドセール

■ クラウドセール (Crowdsale) とは、開発者が独自に発行したトークン (コイン) をビットコイン払いで売りに出し、事業資金を捻出する、暗号通貨を使った新しいタイプのクラウドファンディングの事。

クラウドセール参加者は、ビットコインを使い世界中から少額でも参加しトークンを購入することでプロジェクトをサポート



プロダクトへの事前アクセスや特別な権利を得ることができる



■ ブロックチェーン技術の研究開発により次世代銀行「smartBank」を開発し、KeY' TOKEN プロジェクトホルダーにとって大きなメリットを可能にします。



15. クラウドセールスの動向





16. クレジットカード、デビットカードの市場規模

デビットカード・クレジットカード業界の世界市場規模

- クレジットカードの世界市場規模は決済額ベースで
2400兆円～2500兆円程度
- 発行枚数は約100億枚
- 年間決済件数は約2,000億回

出典：クレジットカード業界の世界市場規模

中国、英国、フランス、ドイツはデビットカードの比率が高く、日本や韓国ではクレジットカードの比率が高いことが特徴です。

デビットカード・クレジットカード業界の仕組み

クレジットカード会社の業務内容には大きく分けて3つあります。カードをカード会員に発行するイシューアという業務、カード決済の導入をしているお店（加盟店）を増やすアクワイアラーという業務、各カードのブランドである決済ブランド（ビザ、マスター等）のライセンスを付与する業務です。日本の場合は、ほぼイシューアとアクワイアラーが同一のカード会社が行いますが、米国では加盟店開拓の専門業者もいます。

VISA、マスターカードはライセンスフィー、他のカード会社にとっては、加盟店からの決済金額に応じた決済手数料と利息収入（キャッシング、リボルビング）が収益源となっています。

出典：クレジットカードの決済の流れ

デビットカードとクレジットカードの違い

クレジットカード



商品代金等を後払いする際に使用する決済用のカードの総称です。

デビットカード



預金と紐づいた即時決済用のカードの総称です。この他に、前払い方式のプリペイドカードもあります。

17. エクスチェンジ・フロー

新暗号通貨・フロー

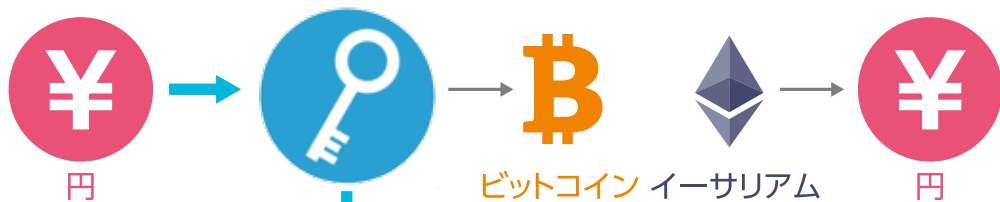


取引所により換金できない可能性あり

主要暗号通貨・フロー



KeY' トークン・フロー



銀行準備中



マスターカード (JPY/USD/KEY)

世界の ATM・現地通貨出金可能

世界中でショッピング可能

日本国内の銀行・ネットバンクで

日本で・世界でネットショッピング

現金(円) 出金可能

セブン銀行
ゆうちょ銀行
ファミマ